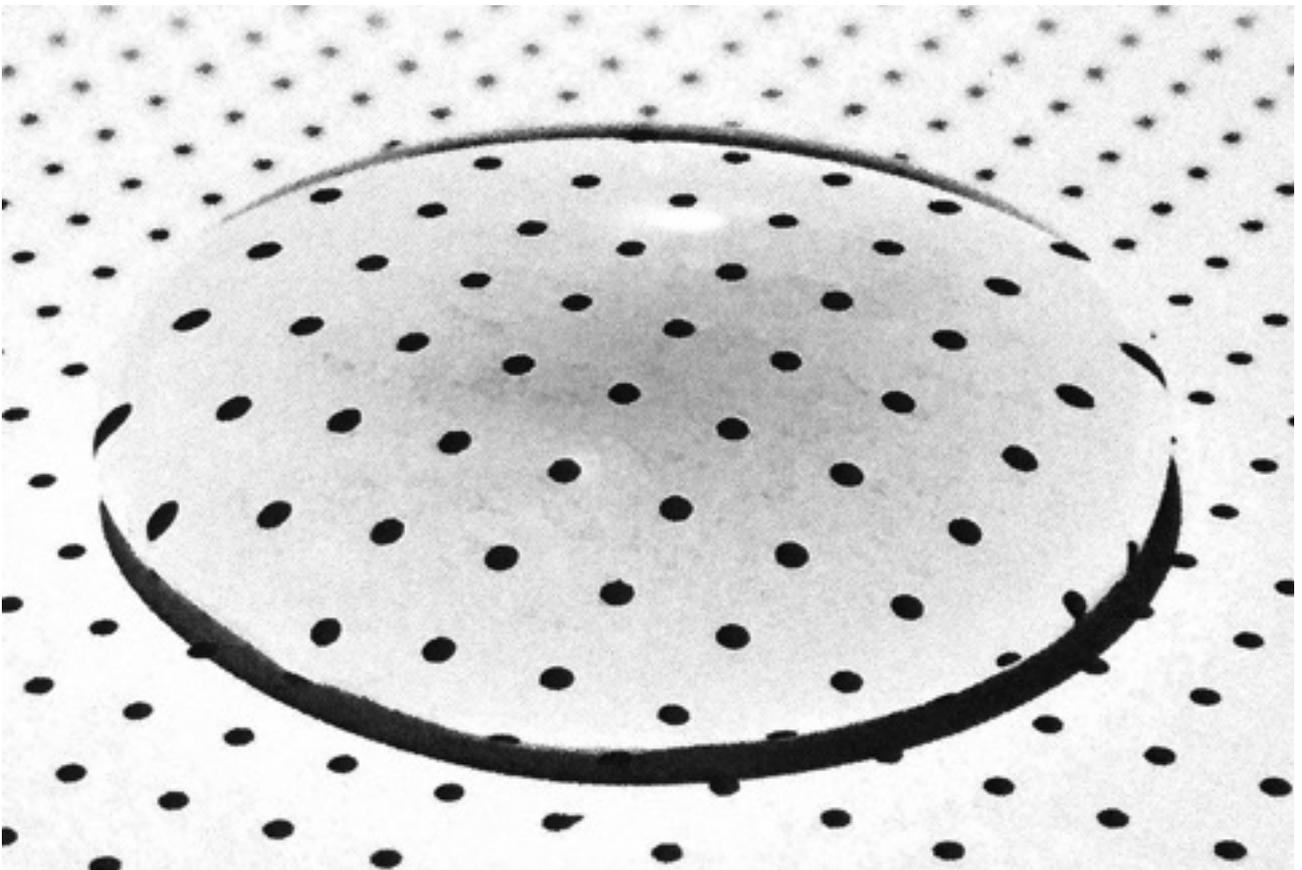


○企画概要

この度、企画展「サーフェステンション」を開催致します。本展示は、若手作家3人の連続個展となります。サーフェステンションとは表面張力のことを指し、彫刻、絵画、ニューメディアの異なる枠組みから出発した3作家が同じ場で個展を行うことで、それぞれの境界面についてを再考する展示となります。



○ステイトメント

私たちは一つの透明なコップに水を注ごうとしている。

もうコップからは溢れ出るであろう量であることは目に見えているのに、そこに丸みを帯びた不思議な境界をつくる。境界は少し揺らしてみてもそこに留まろうとしている。それら境界を保持しようとする物理現象をサーフェステンション(表面張力)という。この現象に見られるように、常に二項の緊張関係は、臨界に達せられた時はじめてその様態を見せる。これは主体である自己が、動き続ける境界をひたすらに掴もうとする行為に近いのかもしれない。

自己と世界の間で。グローバリゼーションの名の下、あらゆる境界が透明化している。ここまでフラットになった時代は無いだろう。こういった透明化された世界で、しかし私たちは善も悪も際限なく境界を生成し続ける。無意味であろう境界が、また別なものを明らかにすることがある。私たちはそうやって曖昧な何かに対しても境界をつくってきた。何かを定めるために流動的な境界をどうにかして明確化しようとしてしまう。

目に見える境界を越境する。しかしそれ以上先の境界面は感覚でしか捉えられない。その身体の感覚を私たちは捉えようとする。それが本展示の目的である。また私たちはこの実験の中で作品と社会の境界面を推し量ろうとする。美術の境目が分からなくなる中、サーフェスの力強さや確かさを今一度見たいと思う。そしてこれは言うまでもなく、表現自体の透明化を再考することでもある。

今回の連続個展は異なる美術の枠組みから出発した3人で行われる。

必ずそれぞれの境界面をつくる。

それぞれの接触角を持つ。

そしてそこにはアクチュアルな生々しさが介在する。

それらが収斂した時、私たちの力学はどこへと作用するのだろうか。

○WEBページ

<https://surfacetension-wk.tumblr.com/>

○期間

9/20(水) ~ 10/14(土)

AM9:30 ~ PM18:30

日曜, 祝日休廊 *9/23(土)のみ祝日もOpen

クロージングパーティー (10/14 17:00~)

9/20 - 9/26 「チューニング・ガム」

大川原暢人

ガムみたいに生きている。
空間に適応しようと流動、変形する。
形体を想像し、吐き出して確認すると裏切られる。
裏切りは喜びを生み、少し不安にさせる。
2007年、「KY（空気読めない）」が流行語大賞をとった。
そんな時代に思春期を過ごした僕は流動体になっていた。
ガムと同調する社会を重ね「チューニング・ガム」と名付けた。



9/28 - 10/4 「誤読について」

團上祐志

伊邪那美が伊弉諾を追い掛ける坂が、
あの世とこの世の境になるということは、
遠さ、つまり距離そのものが境界面になりうるということを示す。
私たちは坂を岩戸で塞いだ。
対面で戸を叩き合い約束を交わした。
私はこれからそれを絵画の約束としよう。



10/6 - 10/13 「クロスポイント」

鷺尾怜

何かを所有することで、そしてその意味を求めることで、安心できることがある。

クロスポイントはそこに居座っている。
粘膜と粘膜をすり合わせるような深い交わりではなく、そっと手元にあるような薄っぺらい関係について。



○会場

W+K+ 1F

〒153-0051 東京都目黒区上目黒1-5-8

東急東横/日比谷線 中目黒駅 徒歩1分

